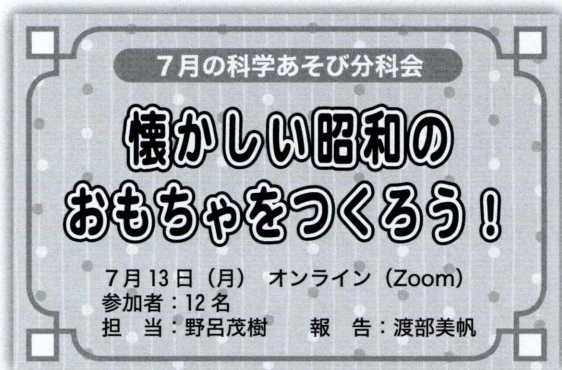




毎年7月の科学あそび分科会は、青森県にお住まいの野呂さんに科学工作を教えていただいています。事前に工作材料がたっぷり送られてくるので、封筒を開けた時からワクワクが始まります。工作の詳細については、記事が掲載された会報をご覧ください。

1. CDヘビこま (会報6月号p. 6に掲載)

まず同封の市販プラスチック製のヘビこまで、底に磁石があり、回すとウネウネした薄い鉄製のヘビが動くことを確かめました。野呂さんが透明なCDにボルトとペットボトルキャップや磁石をセットして用意してくれていたのも、大きめのカラークリップを水平に伸ばしヘビにして遊びました。透明なのでヘビの動きがよくわかります。CDを透明にするには、傷つけてからガムテープでバリッとはがしたそうです。なかなかはがれないものもあるそうです。

このCDこまは安定して良く回ります。心棒のネジとCDの間(スペーサー)は、アイロンビーズ、ストロー、網戸の押さえゴムでもいいそうです。

2. マジックレール (会報7月号p.10に掲載)

牛乳パックにカラフル模様の厚紙を貼った円の中心に、小さなネオジム磁石を厚さ5ミリの椅子の脚キズ防止クッションで留め、磁力でクギが両側に一直線になるようにしたら、レールにのせます。レールを上に向けたり下に向けたりすると、コマがくるくると行きつ戻りつ回り続けます。レールが開いているので、片方がはずれてなめらかに戻るということです。

3. T字パズル (会報7月号p. 8・9に掲載)

8センチ×8センチの黒厚紙に線がすでに引いてあったので、指示に従って4つの部分を切りだしました。「一直線の棒を作ってみて」という呼びかけにすぐに完成させたKさん。最後にみんなで答え合わせをしました。野呂さんは子どもの頃からこのパズルが大好きだったそうです。104もの図形とその解も送られてきました。当分の間楽しめそうです。

4. カタカタ人形 (会報8・9月号p.18に掲載)

ダンボールにすでに4センチ間隔で穴が開いていて、爪楊枝で穴を大きくしてから綿棒を半分に切って差し込みました。いっぺんに綿棒を差し込むとダンボールが壊れるといけないからです。だるまさんの裏にストローを貼り、片方ずつ綿棒にひっかからない長さにカットしたら出来上がりです。クリップをつけるとカタカタッと速く落ちていきます。この音が小気味よく何ともいえず楽しい気分にさせてくれます。みんなの笑顔がこぼれました。斜めになるように、支えや滑り止めのついた台も用意されていて、何から何まで至れり尽くせりで、野呂さんに感謝しきりです。楽しかったです！

